

令和7年度 北九州市港湾空港局 当初予算概要

1 予算の総額と前年度比較

(単位：千円)

会 計	令和7年度 当初予算額 (A)	令和6年度 当初予算額 (B)	増減額 (C)= (A-B)	増減率 (C)÷(B)
2款 総務費 (空港関連予算)	1,846,349	1,639,265	207,084	12.6%
10款 港湾費	10,876,351	9,097,679	1,778,672	19.6%
一般会計 計	12,722,700	10,736,944	1,985,756	18.5%
港湾整備特別会計	5,743,800	5,108,800	635,000	12.4%
土地取得特別会計 (港湾空港局関連予算)	125,556	11,241	114,315	1016.9%
空港関連用地整備 特別会計	3,500	3,500	0	0%
臨海部産業用地貸付 特別会計	468,600	637,600	▲169,000	▲26.5%
市民太陽光発電所 特別会計	103,000	105,000	▲2,000	▲1.9%
特別会計 計	6,444,456	5,866,141	578,315	9.9%
合 計	19,167,156	16,603,085	2,564,071	15.4%

2 主要施策

「稼げるまち」

- ・ 港湾では、新たな長期構想と港湾計画に基づき、機能強化と利用促進、2024年問題対応、港湾施設マネジメントの推進、風力発電関連産業の総合拠点化に取り組む
- ・ 空港では、滑走路延長を起爆剤とした物流拠点化に向けた機能強化、路線誘致や集貨・集客等の利用促進、アクセス強化等に取り組む

「彩りあるまち」

- ・ 国内外からの多くの観光客や市民等が訪れ、楽しめるよう、港湾と空港の魅力向上と賑わいづくりに取り組む

「安らぐまち」

- ・ 市民の安全・安心を守るため、港の防災・減災対策と港湾施設の老朽化対策に取り組む

1 北九州港

(1) 北九州港の機能強化

アジアの「物流拠点」を目指し、港湾機能の強化や企業版ふるさと納税を活用した港湾施設の安全対策に取り組む、稼げる基盤をつくる。

《主な事業》

- ・新規)新門司地区交通安全対策事業 【20百万円】
- ・拡充)太刀浦第2コンテナターミナルコンテナクレーン更新事業(特会) 【1,373百万円】
- ・拡充)太刀浦地区施設整備調査検討事業 【94百万円】



【太刀浦コンテナクレーン】



【太刀浦地区施設整備調査検討箇所】

(2) 北九州港の利用促進

北九州港の航路維持・拡大及び集貨拡大を目的として、新たな航路・貨物やフェリー・RORO航路の新規利用に対する補助を行う。

《主な事業》

- ・拡充)港湾利用促進支援事業(特会) 【100百万円】
- ・拡充)海上モーダルシフト促進事業 【7百万円】



【フェリー・RORO船】

(3) 港湾施設マネジメントの推進

港湾施設の集約・利用転換、民間活力の導入による施設の再配置を行うことを目的として、必要となる現地測量や利用状況の調査・分析等を行う。

《主な事業》

- ・拡充)港湾施設マネジメント推進事業 【83百万円】
- ・拡充)港湾施設マネジメント推進事業(特会) 【8百万円】

(4) 風力発電関連産業の総合拠点の形成

風力発電関連産業の総合拠点を形成するため、企業誘致活動や普及・啓発活動を実施するとともに、洋上風力O&Mの競争力を強化するための支援を行う。

また、「浮体式」基礎の普及を見据え、響灘西地区用地における整備方針の検討を行う。

《主な事業》

- ・新規)浮体式拠点開発検討事業 【10百万円】
- ・新規)洋上風力O&M競争力強化事業 【6百万円】
- ・洋上風力関連産業用地整備事業 【464百万円】
- ・響灘洋上風力発電拠点化推進事業 【9百万円】



【風力発電関連産業の総合拠点化のイメージ】

(5) カーボンニュートラルポート(CNP)の形成

官民連携による継続的かつ計画的な港湾の脱炭素化の取組みを進めるため、脱炭素化推進協議会を開催し、港湾脱炭素化推進計画の更新等を行う。

《主な事業》

- ・拡充)カーボンニュートラルポート(CNP)推進事業 【13百万円】

(6) みなとの賑わいの創出

国内外の観光客の呼び込みや、みなとの賑わいを創出することで、市内経済の活性化及びみなとを核としたまちづくりを推進する。

《主な事業》

- ・拡充)クルーズ船誘致・受入事業 【54百万円】
- ・拡充)みなとオアシス推進事業 【5百万円】



【クルーズ船】

(7) 防災・減災対策

高潮災害から立地企業を守ることを目的として、防潮堤の整備(新門司地区)を行う。

《主な事業》

- ・海岸(高潮)事業 【30百万円】



【新門司マリナー】

2 北九州空港

(1) 旅客・アクセス

新規路線就航や増便の受入れに向け、ハンドリング等の人材不足を解消するため、働きやすい職場環境づくりの支援に取り組み、新規就労等を促進する。
また、空港アクセスについて、エアポートバスの増便や最寄駅への特急停車等による利用促進を実施する。

《主な事業》

【旅客】

- ・新規)広域集客促進事業 【26百万円】
- ・拡充)空港受入体制強化事業 【11百万円】
- ・新規)航空路線支援事業 【125百万円】



【国内外の旅客定期便】

【アクセス】

- ・拡充)空港アクセス強化事業 【125百万円】
- ・空港アクセス事業 【115百万円】



【朽網駅特急ルート(令和7年4月1日開始)】

(2) 貨物

半導体貨物等の集貨、北九州空港への物流ルートの構築に向けたトラック経費の支援、国際貨物を取り扱う通関体制の確立に向けた人材・機能面の支援に取り組む。
また、持続可能な物流の構築に向けて、新たにGSE車両(貨物搭降載車両)の共有化支援を実施する。

《主な事業》

- ・航空物流支援事業 【225百万円】
- ・次世代航空物流構築事業 【65百万円】



【国内外の貨物定期便】

(3) 魅力向上・機能強化

開港20周年を迎える(令和8年3月)北九州空港が、国内外の利用者から選ばれる空港になるため、地域の魅力を生かしたイベント等、更なる魅力向上や賑わいづくりに取り組む。
また、物流拠点化の機能強化に向けて、貨物拡張地区への物流施設・事業者の集積を図るため、上下水道等のインフラを整備する。
加えて、空港の価値や競争力強化に向けて、新技術の導入検討を進める。

《主な事業》

【魅力向上】

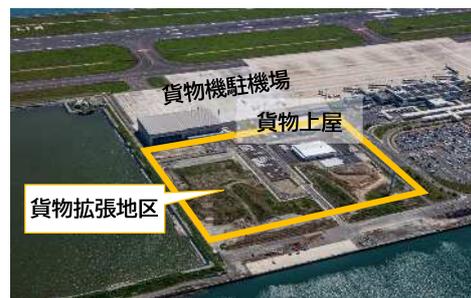
- ・新規)空港魅力向上事業 【50百万円】
- ・新規)空港開港20周年記念事業 【2百万円】

【機能強化】

- ・新規)次世代空港機能強化事業 【95百万円】
- ・拡充)イノベーション空港推進事業 【15百万円】



【魅力向上・賑わいづくり(イベント等)】



【物流機能の強化(インフラ整備)】